

しあわせ

6 月 号



胸に咲かせた 信の花
 弥陀にとられて 今のははや
 信心らしいものは さらになし
 自力というても 苦にやならぬ
 他力というても わかりやせぬ
 親が知っていれば 楽なものよ

(浅原才市)

「手を合わす母」

親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年のお祝いの法要が先月二十一日終了した。新型コロナウイルスの影響によって、一年遅れで勤修され賑々しく勤まったものの、やはりコロナで出鼻をくじかれ、さらに最後まで影響が残る中で法要となった。

親鸞聖人がご活躍された時代背景は、ちょうど今、大河ドラマでやっている家康の時代のように乱世であった中であつた。

戦乱に明け暮れた時代背景の中で親鸞聖人は人生の無常・非常を強く身を感じられたに違いない。

ご自身も比叡山の怒りを受け、越後へ流罪となるなど艱難辛苦を体験された。

やがて関東に移住され伝道教化とともに立教開宗の書となった顕浄土真実教行証文類(教行信証)を著されて浄土の真宗としてお念仏のみ教えを彰かにされた。煩惱具足の凡夫である私たちが救われてゆく道を阿弥陀如来の御本願の中に見出され、本願を信じお念仏申す浄土真宗を明らかにされてより八百年の御法要だつた。

法座案内

△御誕会法要▽

六月 四日(日) 昼席

五日(月) 朝席・昼席

講師 安方 哲爾 師

(大阪府 正満寺住職)

△広島聞熏会 一仏弟子に学ぶ▽

六月 十四日(水)

講師 内藤昭文和上

会費 一〇〇〇円

△法味の会▽

六月 二十三日(金) 午前十時

お話 住職

府中町山田二丁目一五十三
 栢原山 龍仙寺

電話(〇八三)二八二四八三



今月は石見の妙好人、浅原才市さんの歌をご紹介します。いただきますしよ。

胸に咲かせた信の花

弥陀にとられて今ははや

信心らしいものはさらになし

浄土真宗では、阿弥陀さまのみ名、名のいわれを聞きひらく信心をもっとも大事にします。しかし、いざお聞かせいただいでみれば、すべては阿弥陀さまのめぐみであり、信じた、という手柄すら自分のなかには残っていないと才市さんはいうのです。阿弥陀さまの方から、親の方から「まかせよ救う」と名のつてくださっている。その一声のほかには、信心すら、付けたす用事はなかったからです。

信ずれば花ひらく、信じるものは救われる、という教えは世のなかに数多ありますが、浄土真宗には「信じたら、救われる」という教えはありません。信ずる心すら、仏さまの慈

悲のほかにはないからです。その浄土真宗のかなめを、才市さんは「信心らしいものはさらになし」と見事に言葉にされたのでした。以前、報恩講のご縁で、独り暮らしされているお婆ちゃんのところにお参りしました。数年前に娘さんを先に亡くされ、お歳も八〇を超えておられますが、いつも笑顔を絶やさ

れません。その折も「ようお参りくださいましたのう」と、喜んで迎えてくださいました。足を悪くされているので、壁づたいに手を添えながらゆっくり出てこられ、お仏壇の前に座るときも、足を仏さまに向けられないように斜め前に投げて、上半身をぐいとねじってご本尊へ向かい、ご縁に遇ってくださいます。お勤めが終わり、お茶をいただきますながら、「〇〇さん、いつも笑顔をされていますが、お身体悪いところ無いですか？」とお聞きすると、「お寺さん、ええところはありせんわいの」と微笑みながら、こんなお話をされました。

「こないだも、かかりつけのお医者さんで血液検査にひっかかりましたの。『〇〇さん、こりゃあ大きい病院で診てもらった方がええよ』言われるんで、『じゃあ言われるまま、行きましようの』いうて、次の日の朝一番でタクシー呼んで、八時半に鉄道病院行ったんですよ。そしたらまず血液検査してください言われましたの、番号札とつたら一二八番いうて書いてあるんですよ！『看護師さん、こりゃあ元氣じゃなけりゃあ病院には来られんねえ』いうて笑ったんですよ。』

お婆ちゃんのいわれる通り、元氣でないとお院には行けません。もちろん、どこか悪いから病院に行くのですが、それはまだ、わたしの方から病院に行つて、長い待ち時間を待つこともできる、そういう元氣のあるときです。本当に苦しいときには、話が変わります。わたしの方から病院に行くことはできません。病院の方から、来てくれます。救急車で

すね。そして救急車が来ているなら、もはやこちらの仕事はありません。それこそ、乗ることすら不要です。そもそも、自分で車に乗れるなら、救急車は必要ないからです。

南无阿弥陀仏のいわれも同じです。阿弥陀さまは「信じたら、救う」とは言われませんでした。たった一つの条件もつけず、むしろ仏さまの方から立ち上がり、仏さまの方から、「まかせよ救う」と名のつてくださっています。それは「信じたら…」という教えでは間に合わないわたしの姿を見通してください。さったからでした。そのみ名のいわれをお聞かせいただくなれば、もはや南无阿弥陀仏のほかに、何ひとつ加えるべきものはないのです。

親が知っていれば楽なものよ

ご一緒に、親の名のりをお聞かせいただきますしよ。何ひとつ付けたす用事のないお慈悲を、ともに慶ばせていただきますしよ。